

現場に5年入ってわかった！坂戸市民が切望していること

## 坂戸市に絶対必要な動物行政

提言をいたします。

### 【確立したい動物行政】

現場に5年間入り、市民の声を聞き、動き、そして結論づけたものです。坂戸市民がのら猫に困っており、環境の保全の面（糞尿、器物破損、人獣共通感染症）、近所住民の感情トラブル（猫好き、猫ざらい、エサを出す）の面で市役所が動かなければいけないことだとはっきりわかりました。

又のら猫に限らずに解決の難しいペットの処遇にも見て見ぬふりをせずに関与が必要だと強く思います。

●のら猫対策→TNR活動（現在事業化されているが不便多々あり）、地域猫活動（チームC さかどが3つのエリアで立ち上げサポートしています。猫の数はかなり減りました。）、啓発活動（環境政策課よりサポートを受け回覧板活用できています）。※1

●多頭飼育崩壊予防→飼い猫で未手術を放置すると多頭崩壊になる可能性があるため、数の少ないうちに避妊去勢手術を安い金額で行う（チームC さかどがおかしいと思う場合に提言してあちこちで行っています）。啓発活動。※2

●独居高齢者のペットの処遇→緊急保護施設の設定。その後の処遇について親族と協議。信託の創設。（ヘルパーさんやそのた介護関係者が困っているケースが多々あり、話が流れてきて対応している。正式ルートなし。）

●ペット防災の強化→坂戸市ではペット同行避難の避難場所は全22か所の避難所で設定されていますが知らない市民が多いため啓発活動の強化が必要。（チームC さかどと坂戸いきものがかりは坂戸市防災訓練2023年9月にお呼ばれされペット同行避難のブース担当）

●飼い犬のしつけ方教室の常設→ペット同行避難に伴い、吠えない、ゲージに入るなどのしつけ、予防接種、ワクチン接種の推進。ドッグランの設置。

●学校教育現場で啓発活動の定例化→命の大切さ、動物も人間も同じ重さであること。弱いものへの気配り、手助け、正しい飼育方法や考え方を小学校低学年より実施する。（コロナ禍でなかなかすんなりできずにおりましたが、上谷小学校で実績あり。）

## 【資金源について】

今まで個々の団体や個人の動物活動の資金源は寄付などが基本でした。しかしながら、社会情勢によって恒常的でないように思います。

市役所が動物事業特化でふるさと納税を創設してそれを資金源にするのがよいと思います。

ふるさと納税の返礼品は、実際に実施した事業の報告、資金の報告をレポートに作り送ることになるとよいです。アイデアとして坂戸市動物事業の写真をカレンダーにして発送する。

資金の使い方は、市が担当するのではなく（和歌山市の悪例あり）基金のような形にして、連絡協議会のようなものを作り総会で決定していくのがよいと思います（神戸市に事例あり）。

マンパワーに関しては、不安定なボランティアではなく給料を払って仕事をしてもらう雇用がよいです。

## 《伊藤の紹介》

私は子どもの頃から動物が大好きでした。特に猫が好きでした。母親が動物嫌いだったので家では飼えませんでした。近所に住んでいたおばあちゃんの飼い猫、から（オスの茶猫）とよく遊んでいました。

結婚を機に 1994 年 4 月に埼玉県坂戸市に住み始めました。入ったところは北坂戸団地です。その後 2000 年に坂戸駅北口近隣に土地を買い 2001 年に家を建てました。以来 2024 年で 30 年間坂戸市民です。

2005 年 9 月に近所の剣道具屋さんから子猫 2 匹を譲り受け飼い始めました。1 匹は 2021 年 16 歳で亡くなりましたがもう 1 匹は 19 歳で今も健在です。

自宅で子猫を飼うと外ののら猫のことも気になりはじめて、外ののら猫にエサを出すようになりました。敷地内に猫の居場所を作り、我が家の敷地内に住ませるようになりました。多い時は 10 匹位おりました。のら猫たちと近所の原っぱに散歩に行ったりして本当に楽しかったです。

その後 2010 年頃からインターネットで日本の動物の現状を知るようになりました。私の知識欲が目覚めて、法律家や動物行動学者、タレント、愛護団体の主催する動物セミナーに何度も足を運びいろいろなことを多角的に学びました。

敷地内で面倒みているのら猫たちも馴らして（この時は捕獲器は知りませんでした）、1匹ずつ避妊去勢手術に連れていきました。この頃から上尾の堀先生は知っていましたので上尾まで運んでいました。

個人的な活動に終始しておりましたが、もっと大きく活動したいと思いを巡らしていました。そのきっかけは、坂戸駅南側の緑町公園での複数の猫の毒殺を聞いたからです。外に出ていた飼い猫も巻き込まれました。

これが坂戸市の現状なんだとショックを受け、絶対に改善してやると思ったのでした。その方法がのら猫の数を減らす TNR 活動です。そのチャンスが田中えい議員と知り合うことで掴むことができました。

### 《チームC さかどの発足》

法務省の一般財団法人更生保護女性会の入会同期の田中さんが、翌春市議会議員に当選して「猫のことやってくれる？」と頼んだところ、彼女は猫がどんなに大変か知らなかったので「いいよ」と簡単に返事をしてくれました。これがスタートです。彼女にとっては「議員としてのいばらの道」のスタートでした。

市役所は個人とはやらないと自分自身知識があったし、彼女のアドバイスもあり 2018 年秋に正式に「チームC さかど」を発足させました。

まだ 2018 年には市役所に登録をしておりませんでした、「自分の敷地内でのら猫にエサを与えていてのら猫が増ては困るという市民の方」を紹介してもらい、私が直接折衝し、賛同同意を得て TNR 活動をスタートさせました。

### 《チームC さかどの TNR 活動実績》

チームC さかどの活動のメインは TNR 活動です。現在はそれだけでなく多岐にわたっていますがここでは詳細は割愛します。

TNR 数は以下の通りです。この数字はチームC さかどの行った TNR の数字です。市役所との協働の数字ではありません。市役所との協働の数字は以下よりも小さいです。市役所環境政策課が把握しています。

#### ■市役所登録以前

2018 年  
12 匹

2019 年 5 月まで  
23 匹

-----  
合計 35 匹

## ■市役所登録後

2019年6月から12月  
126匹

2020年1月から12月  
262

2021年1月から12月  
172

2022年1月から12月  
137

2023年1月から12月  
92

-----  
合計 790 匹

累計 824 匹

※1

TNRは埼玉県熊谷市で行っている「犬猫みなしご救援隊」との協働が希望です。  
<https://blog.minashigo.jp/archives/57973800.html>

※2

坂戸市で起きた多頭崩壊です。「犬猫みなしご救援隊」に助けて貰いました。  
<https://blog.minashigo.jp/archives/52323191.html>